

2020年7月8日

報道各位



Creative Artists

日米
交換

2020 U.S.-Japan Creative Artists Fellowship Program

2020 日米芸術家交換プログラム

(通称：日米Creative Artists)

展示・公演：2020年7月24日～9月6日(予定) 都内各所

〈プログラム・個別取材のお問い合わせ〉

国際文化会館 企画部

〒106-0032 東京都港区六本木5-11-1

[お問い合わせメールフォーム](#)

TEL: 03-3470-3211 / FAX: 03-3470-3170

(午前9時～午後5時、土日祝日を除く)

担当：前田 愛実 (まえだ まなみ)

2021年夏、オリンピック・パラリンピック開催期間に合わせて 日米アーティストのコラボレーション・プロジェクトを発表

日米芸術家交換プログラムは、日米友好基金（The Japan-U.S. Friendship Commission）と全米芸術基金（The National Endowment for the Arts）の主催のもと、日本の文化庁と国際文化会館の協力を得て、1978年より実施されています。

以後41年間に渡り、毎年米国を拠点とするアーティストが選出され、日本で文化・芸術の研修が行われてきました。2020年～2021年のプログラムでは発足以来初の試みとして、日米のアーティストがチームを組んで作品をつくり、2021年のオリンピック・パラリンピック開催時期に合わせて東京で展示・上演します。アートを通して長きに渡る日米の友好関係を象徴し、東京オリンピック・パラリンピックを記念する特別企画です。



Cameron McKinneyダンス・デモンストレーション（2020年2月4日米国大使公邸レセプション）

【主催】



【共催】



【開催概要】

- イベント名 : 2020 日米芸術家交換プログラム
(英語表記 : 2020 U.S.-Japan Creative Artists Fellowship Program)
- 会期 : 2021年7月24日～9月6日（予定）
- 会場 : 世田谷美術館、シアターX（カイ）ほか
- 主催 : 日米友好基金 (The Japan-US Friendship Commission)
全米芸術基金 (The National Endowment for the Arts)
- 共催 : 公益財団法人国際文化会館
- 助成 : 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
朝日新聞文化財団
- 協力 : 駐日米国大使館 / 文化庁 / 日野自動車株式会社 / 世田谷区 ほか
- お問い合わせ : 国際文化会館 企画部 03-3470-3211 (9 am～5 pm 土日祝を除く)
- 公式サイト : nichibei-artists.org

文化でつながる。未来とつながる。
THE FUTURE IS ART



2020 日米芸術家交換プログラムは「**Tokyo Tokyo FESTIVAL**」の一つとして実施するものです。

Tokyo Tokyo FESTIVALとは、オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される
2020年において、東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、
芸術文化都市東京の魅力を伝える取り組みです。

<免責事項>

日米友好基金と全米芸術基金は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの運営管理下には所属しておりません。

【主催団体概要】



日米友好基金 (JUSFC)

1975年に設立した米国政府の独立機関。戦後の米国の日本援助、および沖縄返還の際に発生した沖縄内の米国施設に由来する信託資金を管理してきた。日米関係の重要性の可視化と相互理解の促進を目指し、助成機関として研究、教育、日本との交流プログラムをサポートする。

ウェブサイト：jusfc.gov

担当： ペイジ・コッティングハム=ストリーター（Paige Cottingham-Streater）
ニハリカ・チバー・ジョウ（Niharika Chibber Joe）



全米芸術基金 (Arts Endowment)

1965年に設立した米国政府の独立機関。芸術・創造性の育成に関わる事業を助成する全米最大規模の公的芸術基金。州の芸術機関、地域の指導者、他の政府機関、慈善セクターなどと提携し、芸術教育や文化遺産への援助や、アメリカ全土のコミュニティで平等に芸術に触れられる機会を与えるべく活動している。ウェブサイト：arts.gov

担当： マイケル・オーローヴ（Michael Orlove）、グヨマー・オチョア（Guiomar Ochoa）

【共催団体概要】



公益財団法人国際文化会館

日本と世界の人々の間の文化交流と知的協力を通じて国際相互理解の増進をはかることを目的に、1952年にロックフェラー財団をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立された非営利民間団体。日米芸術家交換プログラムにおいては来日する米国人芸術家に対し、滞在のサポートから研究・創作活動上の便宜供与まで、様々な援助を提供している。ウェブサイト：i-house.or.jp

担当： 前田 愛実（まえだ まなみ）

【アーティストチーム紹介】

※アーティスト写真のダウンロードは[こちら](#)から

チーム① コンサート：空手×デジタルテクノロジー「KATA」

日時：2021年夏

場所：後日発表

チケット情報：後日発表

空手は戦後日本からアメリカに伝わった文化の中でも最も古く、日米交流の象徴とも言えます。作曲家ジーン・コールマンはデジタル技術を用いて空手の動きを音楽に変換し、それを基に楽曲を構築します。日本の武道と音楽といった伝統的な表現と、モーションセンサーといった最先端の技術を組み合わせて誕生する、新時代のコンテンポラリーミュージック・コンサートです。

参加アーティスト：

ジーン・コールマン (Gene Coleman)



音楽家、作曲家、音楽ディレクター。2014グッゲンハイムフェロー選出、2013音楽部門アメリカンアカデミー・ベルリン賞受賞。楽器やメディアを多様に用いて聴覚、視覚、空間、時間を操り、我々が存在する世界に対する認識力を深める。これまでに70以上の作品を手掛け、近年は科学、建築、映像、舞踊の発達により文化と音楽との関係性が変わってきたことに注目している。シカゴ美術館付属美術大学にて絵画、音楽、ニューメディアを学ぶ。

genecolemancomposer.com



アダム・ヴィディクシス (Adam Vidiksis)

フィラデルフィアを拠点に活動する作曲家、指揮者、打楽器奏者、技術者。テンプル大学ボイヤー音楽・ダンス学部音楽テクノロジー科、作曲科准教授。NYUにて修士、テンプル大学にて作曲博士号を取得。リアルタイム・オーディオプロセッシングを用いることでライブ・デジタルパフォーマンスにおける操作方法を確立、また機械による即興音楽の手法も模索している。

vidiksis.com

中村 明一（なかむら あきかず）



横山勝也師、多数の虚無僧尺八家に尺八を師事。米国バークリー音楽大学、米国ニューイングランド音楽院大学院にて作曲とジャズ理論を学ぶ。自ら極めた日本古来の呼吸法「密息」、「循環呼吸」、「倍音」を駆使。虚無僧尺八音楽をライフワークとしつつ、ロック、ジャズ、現代音楽など幅広く活躍する。外務省・国際交流基金の派遣・海外からの招聘など、世界40か国、150都市で演奏。文化庁芸術祭レコード部門優秀賞など受賞多数。CD12枚、著書3冊がある。東京学芸大学、山梨学院大学等講師。日本現代音楽協会会員。明暗流・琴古流尺八以心会主宰。

akikazu.jp

鶴澤 三寿々（つるざわさんすず）



義太夫三味線方。東京藝術大学にて音楽学修士号を取得。東京音楽大学にて教鞭をとる。2018年重要無形文化財「義太夫節」（総合指定）保持者に認定。2019年に国際交流基金の助成を得てNY、ボストン、トロントにて公演。現代音楽プロジェクトにも参加している。

チーム② パフォーマンス：ストリートダンス meets 盆踊り（仮称）

日時：2021年夏

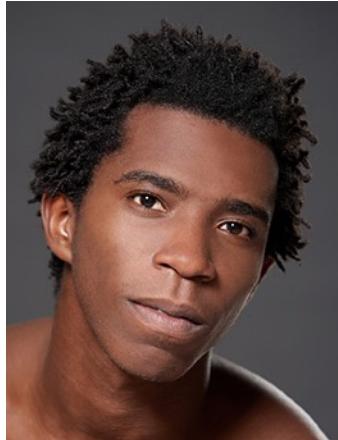
場所：シアターX（カイ）

チケット情報：後日発表

日米ダンサーそれぞれの身体史に根差す、30分のコンテンポラリー・ダンス作品。キャメロン・マッキニーは神戸で島崎徹のセレクトメンバー【Dance Barbizon】と制作に取り組んだ後、ニューヨークの自身のカンパニーメンバーと合流する予定です。日米のダンサーが共に踊ることで互いの絆を確かめ合い、異なる文化の中にある共通点を見出していく作品です。

参加アーティスト：

キャメロン・マッキニー (Cameron McKinney)



NYを拠点に活躍する振付家、ダンサー、教育者、作家。2014年よりダンスカンパニーKizuna Dance主宰、ダンスを通して日本の言葉と文化を広める為に活動中。2019年6月から8月にかけてアジアン・カルチュアル・カウンシル個人グランティとして来日し、ストリートダンスと舞踏の研究を行う。国内外で作品を発表しており、各種ワークショップ、マスタークラス、レジデンシーを率いる。ギブニー・ダンス・センター（NY）所属。

cameronmckinneydance.com

島崎徹 (しまざき とおる)

1990年Sitter School of Dancing（カナダ）のバレエ部門主任兼振付家に就任。新国立劇場、ジュネーブ大劇場、フランドル王立バレエ団、ハバートストリートダンスシカゴ、Introdans(オランダ)、シンガポールダンスシアター、コロラドバレエ団など世界各国の舞踊団にて振付。宝塚歌劇団の『薔薇の封印』や『Never say goodbye』、東宝ミュージカル『エリザベート』(2004年～2013年版)の振付なども手がける。2005年度に神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻教授就任。toru-shimazaki.com



米国大使公邸デモンストレーションの様子 (Cameron McKinney & 本間紗世)



チーム③ インスタレーション：旅はすみか—The Journey Itself Home

2021年7月末～8月頭

場所：世田谷美術館 他

入場料無料

夫婦でアート活動をするスー・マークとブルース・ダグラス（ユニット名：marksearch）、阿部浩之と遠藤夏香の二家族が共に、改装をほどこした特設トラックで東京と福島を巡回しながら旅先で出会う人々と俳句を制作するプロジェクト。松尾芭蕉の奥の細道にインスピレーションを得ており、2トントラックの荷台を俳句を書き、俳句の「音」を感じる体験型インスタレーションの場として提供します。東日本大震災から10年という節目の年にあたり、アーティストたちは被災者の体験談をもとに心の回復力について学び、共有し合います。詩的探求を通して社会における共同体意識を深め、希望の想いを形にする試みです。

特設ウェブサイト：journeyitselfhome.com Instagram: [journeyitselfhome](https://www.instagram.com/journeyitselfhome/)

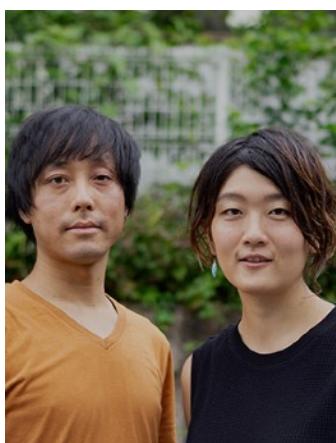
参加アーティスト：



スー・マーク&ブルース・ダグラス (Sue Mark & Bruce Douglas)

二人組ユニットmarksearchとして、カリフォルニア州オークランドを拠点に活動するインターディシプリンアリー・アーティスト。互いの過去を共有することでコミュニティにエンパワーメントもたらす、インタラクティブなデザインを20年以上続けている。住民を主体とする歩きながらのディスカッションや、歩道でのパフォーマンス、記念碑・壁画の合作といった様々な形で世界中のコミュニティの物語を紡いでいる。

marksearch.org

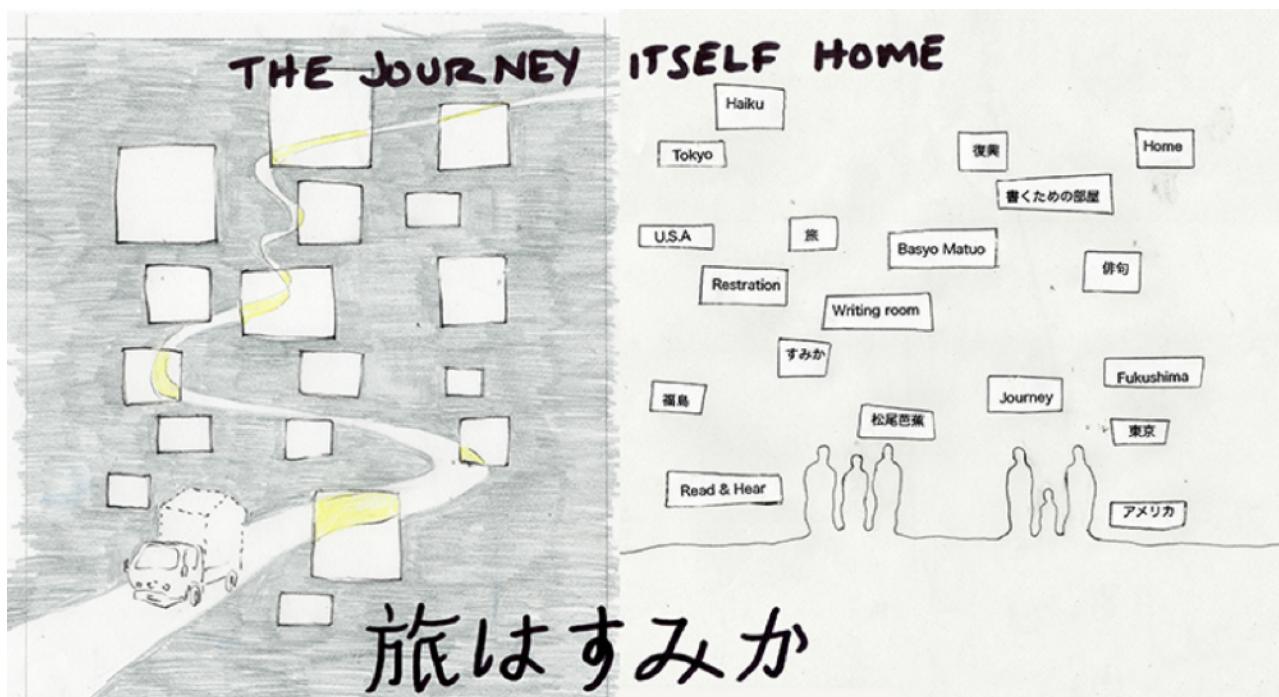


阿部 浩之&遠藤 夏香 (あべ ひろゆき&えんどう なつか)

デュオとしてもそれぞれ個人作家としても活動する、東京都在住のマルチメディア・アーティスト。地域の歴史やそこに住む人々をリサーチしながら作品を制作しており、インスタレーションや絵画、映像など様々な表現を通して個人的な記憶や体験を視覚化する。

hiroyukiabe.com natsukaendo.com

コンセプトスケッチ (遠藤 夏香 & Sue Mark)



ワークショップの様子 (2019年10月・米国オークランド)

チーム④ インスタレーション：サステナビリティを探究するアートレストラン（仮称）

2021年7月末～8月頭

場所：世田谷美術館 他

入場料無料

アーティストのジェシー・シュレシンジャーと船越雅代が、食と農業という視点を通してサステナビリティを探究する体験型インスタレーション。日本各地で仮設のレストランを開き、訪れる人に食・建築・農業・工芸の文化を体感してもらう試みで、日本の工芸文化が西洋に与えた影響など、歴史を現代の視点で見直しながら、未来のサステナビリティのモデルを模索します。

参加アーティスト：

ジェシー・シュレシンジャー (Jesse Schlesinger)



カリフォルニア美術大学絵画学科で学士を取得後、サンフランシスコを拠点に木工、サイトスペシフィック・アート、絵画、写真など様々なメディアを用い活動している。常に「場」というコンセプトに注目し、自然環境や建造物、またその場所の成り立ちといった要素がどう人の経験に関わってくるのかを模索。伝統を重んずる大工の家に生まれたことと農業に携わった経験が自身の哲学に大きく影響を与えている。サンフランシスコの著名店ジェネラルストアやミネソタ・ストリート・プロジェクトなどで施設内設備のデザイン・施工も担当。

jesseschlesinger.com

船越 雅代 (ふなこしまさよ)

Pratt Instituteでアート（彫刻）を専攻後、料理に表現の可能性を見出しNYの料理学校に入学。卒業後Blue HillをはじめとするNYのレストランに勤めた後、ヨーロッパからアジアを放浪。オーストラリア客船のシェフとして太平洋を巡り、バリの老舗ホテルのシェフ、京都でレストランkilnの立ち上げに参加しシェフ/ディレクターを務め、現在京都で食の可能性を追求するスタジオFarmoon主宰。国内外各地でサステナブルな食と民俗学・文化人類学・アート・デザインを融合した活動を展開中。東アジア文化都市2016奈良市食部門ディレクター、土祭2018招聘アーティスト



チーム⑤ 日米キッズ・パブリック・アートプロジェクト(仮称)

2021年夏

都内某所（近日情報解禁予定）にて展示

入場料無料

日本とアメリカの各地でワークショップを開催し、子供たちにアート作品を作ってもらい、まとめたものをインсталレーションとして展示します。テーマは“エネルギー”を描くこと。エネルギーは科学・アート・スポーツに共通する全ての源。様々な人々が、年齢やスキルを問わず、オリンピック・パラリンピックのテーマでもある「全員が自己ベスト」に到達できる可能性を示しながら、日米の友好関係が末永く未来へと継承されていくよう願いを込めます。



ワークショップの模様（2020年1月大分県佐伯市）

参加アーティスト：



ベン・ヴォルタ (Ben Volta)

ペンシルバニア州エルキンス・パークを拠点に活動。パブリック・アートを制作しながら教育、修復事業、都市計画など様々な分野に携わる。常に変化を促す触媒としてのアートの力を信じ、ペンシルバニア大学を卒業後、世界的アーティストグループのティム・ロリンズ & K.O.S.に参加。2015年ピュー財団フェローシップを取得。フィラデルフィアの公立学校と提携し、教育プロセスの中にアートを取り入れる取り組みを20年近く行っている。

benvolta.com



桑門超 (くわかど ちょう)

学校法人佐伯大谷学園ルンビニこども園園長。アメリカ、イギリスの大学院で社会人類学を学び、カリフォルニア州公認NPO法人Pacific Kids Mural Foundation (PKMF) を設立、理事就任。アーティストの佐倉康之、瀬尾泰章と共に世界中で壁画制作を行なうキャラリンパ・プロジェクトに取り組み、日本・海外の若い学生と地域の大人と協力してパブリック・アートを制作している。

lumbini-kind.net packmf.org



佐倉 康之 (さくら やすゆき)

美術家。株式会社 TEAM SAKURA ART PROJECT 代表。東京藝術大学絵画部門にて博士号取得。ISCP (NY) プログラム参加。医療現場でのアート、自然再生エネルギー教育プロジェクト「こどもエネルギーサミット」などの企画によりグッドデザイン賞、キッズデザイン賞受賞。キャラリンパ・プロジェクトでは海外文化交流なども行っている。

tsap.biz

瀬尾 泰章 (せお ひろあき)

フォトグラファー。広告写真、ポートレート写真などで幅広く撮影をする傍らPacific Kids Mural Foundation の理事も務める。キャラリンパ・プロジェクトで、こどもたちのアートプロジェクトを数多く撮影している。

seohiroaki.com